

がん薬薬連携に関する 研修会

実施後報告

ご参加頂きありがとうございました。

令和4年度第2回がん薬薬連携に関する研修会を3月24日に開催し、22名の方に参加していただきました。本来であれば集合形式で開催したいところでしたが、今回も感染対策を考慮し、オンライン開催といたしました。

今回は女性のがんをテーマに、当院薬剤師より「婦人科がんの治療と薬剤管理について」、緩和ケア認定看護師より「女性性を支える緩和ケア」について、講演を行いました。

時代の移り変わりとともに女性の果たす役割は多様化し、ジェンダレスも謳われる時代ですが、妊孕性や次世代への継承といった部分は、がん治療を行ううえで変わらず重要視すべき点であると考えます。また、化学療法においては、末梢神経障害や脱毛など、日常生活や容姿への影響が大きい副作用も多く、女性らしいQOLを意識した薬学的ケアが必要になると考えます。「女性性」という捉え難いテーマでしたが、最後にはチームアプローチの大切さにも触れられ、改めて地域連携の重要性を感じさせる講演になったと思います。

今後も病薬連携の充実、がん患者への質の高い治療提供に向けて、実りある研修会が実施できるよう精進してまいりますので、引き続きご参加のほどよろしくお願いいたします。

TC療法

(パクリタキセル)

女性性を捉える

一般的に

- ・共感性が高い⇒仲間意識や人との繋がりを重んじる
- ・言語機能が常に活発⇒会話の処理能力が高い

臨床現場での印象

- ・感情の表現がストレート（例：がん告知の場面⇒「可塑性としてDEHPを含有するもの」）
- ・闘病者同士のつながり（情報交換・他者の経過に共感）
- ・生を全うしようと、懸命に治療に臨まれる方が多

まとめ 女性性を支える緩和ケアのためには

➤まずは苦痛緩和。苦痛緩和に難渋する場合はチームアプローチ

➤一人一人生活も悩みも苦痛も違う

➤女性のもつコミュニケーション能力を活かし、会話を大切にし関係性を構築していくこと。

➤自分の物差しで見ない。決めつけない。相手の声に耳を傾ける。

➤希望を引き出す⇒緩和ケアにつながっていく。

➤がんと向きあい、それぞれの立場の役割を果たすために懸命に生活

➤チームアプローチは必須：院内も院外も医療者の繋がりを大切に。

- 子宮頸がん：標準療法
- 子宮体がん：術後補助療法
進行再発
- 卵巣がん：標準療法、再発
- 6サイクル繰り返す
- 点滴時間は約4.5時間
- ルートの注意点：
インラインフィルターの
（可塑性としてDEHPを含有するもの）
- 併用禁忌：
ジスルフィラム、シアナ
（どちらも酒量抑制剤）